STAR

バキュームカー

取　扱　説　明　書

製品コード	K31263	K31264
型　　式	TVC11040	TVC13040DX

ユアツマンホールアタッチメント
(TVC11040 オプション)

製品コード	K31245
型　　式	AYM8800

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、部品供給型式を必ずご連絡下さい。

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIアグリテック

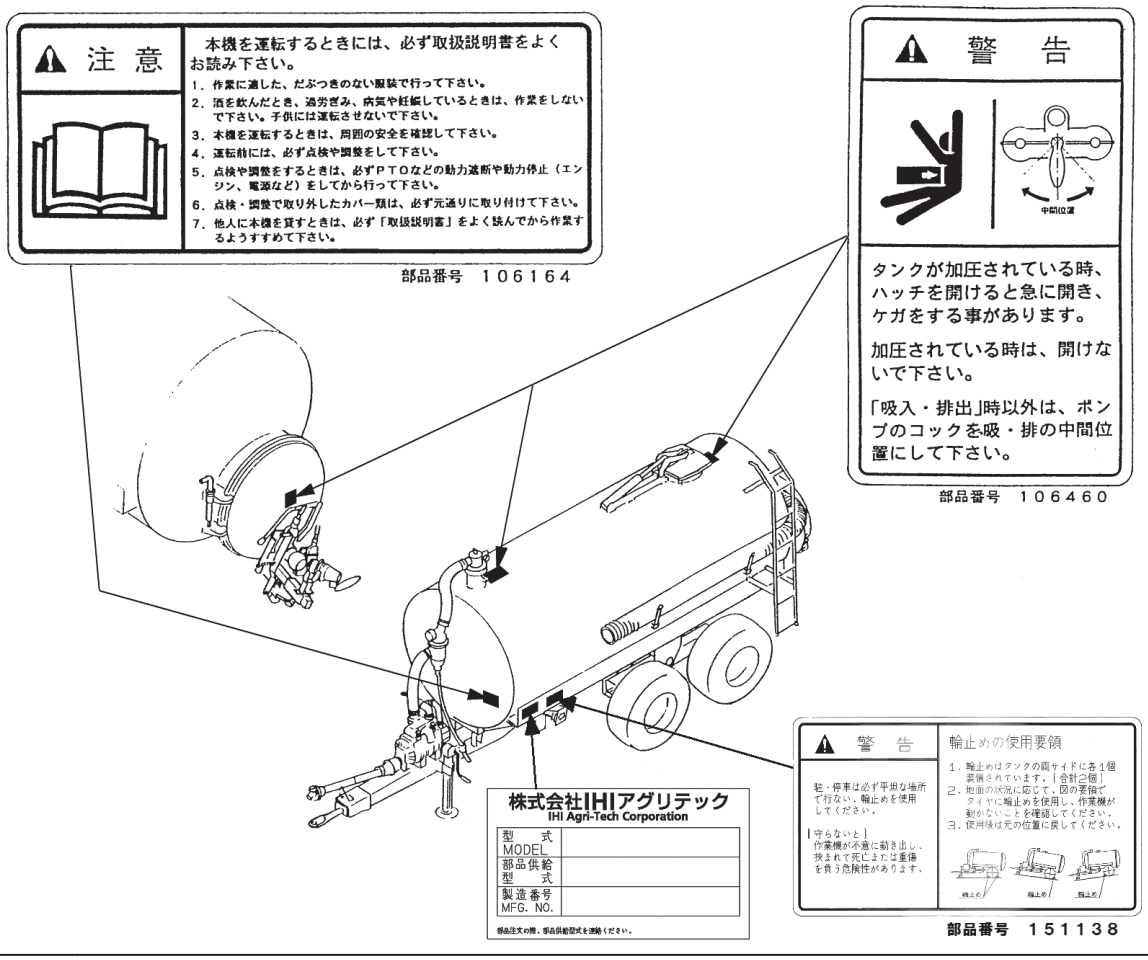
⚠ 安全に作業するために

安全に関する警告について

⚠印付きの警告マークは安全上、特に重要な項目を示しています。
警告を守り、安全な作業を行ってください。

⚠ 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあるものを示します。

警告ラベルの貼り付け位置



ー ラベルが損傷したときは ー

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大切なものです。
ラベルが損傷したときは、すみやかに貼り替えてください。
注文の際には、この図に示す　部品番号　をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じるおそれがあります。
作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作　業　前　に

取扱説明書は製品に近接して保存を

⚠ 注意

- 機械の取り扱いで分からない事があったとき、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。
  取扱説明書は、分からない事があったときにすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

⚠ 注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。
  作業を始めるときは、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんなときは運転しないでください

⚠ 警告

- 体調が悪いとき、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。
  次の場合は、運転しないでください。

  □過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
  □酒を飲んだとき。
  □機械操作が未熟な人。
  □妊娠しているとき。

服装は作業に適していますか

⚠ 警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。
  次に示す服装で作業してください。

  □袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
  □ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
  □ヘルメットを着用する。
  □はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸すときは

⚠ 警告

- 機械を他人に貸すとき、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。
  取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

⚠ 注意

- 機械の改造や、当社指定以外の部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。
  機械の改造はしないでください。
  部品交換するときは、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

⚠ 警告

- 機械を使用するときは、取扱説明書に基づき始業点検を行い、異常箇所は必ず整備を行ってください。
  守らないと、機械の破損を引き起こすだけでなく、機械に巻き込まれる等の思わぬ事故により、死亡または重傷を負う危険性があります。

エンジン始動・発進するときは

⚠ 警告

- エンジンを始動するとき、トラクタの横やステップに立ったまま行うと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。
  運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- エンジンを始動するとき、主変速レバーを「N」（中立）にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。
  主変速レバーを「N」（中立）にして行ってください。

- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
  周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。
- 室内で始動するとき、排気ガスにより中毒になる事があります。
  窓、戸などを開け、十分に換気してください。
- ＰＴＯを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
  ＰＴＯを切ってから始動してください。

作業機を着脱するときは

⚠ 警告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。
- 作業機をトラクタから切り離すときは、必ず平坦な場所で行い、スタンドを接地させ、輪止めを使用してください。
  守らないと、作業機が不意に動き出し、挟まれて死亡または重傷を負う危険性があります。
- 作業機をトラクタに連結するとき、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。

⚠ 注意

- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
  トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

パワージョイントを使用するときは

⚠ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
  カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
  損傷したらすぐに取り替えてください。
  使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱するとき、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。
  ＰＴＯを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。
  トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

⚠ 注意

- 最伸時の重なりが１００㎜を下回ると、ジョイントを回転させたとき、破損しケガをする事があります。
  最縮時の隙間が２５㎜よりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
  適正な重なり量で使用してください。
- パワージョイントを接続したとき、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。
  溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

公道走行時は作業機の装着禁止

⚠ 注意

- トラクタに作業機を連結して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
  トラクタに作業機を連結しての走行はしないでください。

移動走行するときは

⚠ 危険

- 移動走行するとき、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。
  ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

⚠ 警告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。
  トラクタには、運転者以外の人は乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
  急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。
  低速走行してください。

- 旋回するとき、内輪差により周囲の人を作業機に巻き込み、ケガをさせる事があります。
  周囲の人や障害物との間に十分な間隔を保って行ってください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こす事があります。
  路肩は走行しないでください。
- 高低差の大きい段差を乗り越えようとすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。
  あゆみ板を使用してください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。
  作業機の上には、人を乗せないでください。
- 突起物を折りたたまずに移動走行すると、障害物などにぶつかりケガをする事があります。
  折りたたんで、移動させてください。
- 移動走行するとき、後輪タイヤが直進状態に固定されていないと、路面の凹凸等で作業機が左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。
  ステアリング装置の油圧シリンダを伸ばし、後輪タイヤを直進状態にして低速走行してください。

⚠ 注意

- 作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。
  移動走行するときは、ＰＴＯを切ってください。

作　業　中　は

作業するときは

⚠ 警告

- タンクが加圧されているとき、ハッチを開けると急に開き、ケガをする事があります。
  加圧されているときは、開けないでください。
  「吸入・排出」時以外は、ポンプのコックを吸・排の中間位置にしてください。
- タンクが加圧されているとき、ポンプのコックを操作するとタンク上部の安全装置が働き、連成計が“0”を表示していてもタンク内に圧力が残り、ハッチを開けると急に開きケガをすることがあります。
  吸入または排出バルブを開けタンク内の圧力を取り除いてから、ハッチを開けてください。
- 作業をするとき、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。
  周囲に人を近づけないでください。
- 作業機指定のＰＴＯ回転数を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。
  指定回転数を守ってください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。
  作業機の上には、人を乗せないでください。
- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。
  低速で作業してください。
  下り作業をするとき、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。
  坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。
- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。
  前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。
- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。
  しっかりとハンドルを握って運転してください。
- 駐・停車は必ず平坦な場所で行い、輪止めを使用してください。
  守らないと、作業機が不意に動き出し、挟まれて死亡または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注意

- 機械の調整や、付着物の除去などを行うとき、ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

トラクタから離れるときは

⚠ 警告

- トラクタから離れるとき、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。

作業が終わったら

機体を清掃するときは

⚠ 警告

- タンク内に入るときは、必ず十分に換気をしてください。
  守らないと、酸欠により死亡、または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

不調処置・点検・整備をするとき

⚠ 警告

- タンク内に入るときは、必ず十分に換気をしてください。
  守らないと、酸欠により死亡、または重傷を負う危険性があります。
- タンク上部の点検、整備時はヘルメットを着用し、タンクに設置しているハシゴ、もしくは脚立を使用してタンクに直接乗らないでください。
  守らないと、転落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注意

- 機械に異常が生じたとき、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。
  取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいは作業機の急な降下で、ケガをする事があります。
  補修もしくは部品交換してください。
  継手やホースを外すときは、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
  元通りに取り付けてください。

もくじ

安全に作業するために

安全に関する警告について …… 1

作業前に …… 2

作業中は …… 4

作業が終わったら …… 5

不調処置・点検・整備をするとき …… 5

1 トラクタへの装着

1 各部の名称とはたらき …… 8

2 適応トラクタの範囲 …… 9

3 組立部品 …… 9

1. 解梱 …… 9
2. 組立 …… 9
3. ホーススタンドの設置 …… 10

4 トラクタへの装着 …… 10

1. ドローバへの連結 …… 10
2. トラクタ油圧取り出し口との接続 …… 11
3. ユアツマンホールアタッチメントとトラクタ油圧取り出し口との接続 …… 11
4. 電装の接続 …… 11

5 パワージョイントの装着 …… 12

1. 長さの確認方法 …… 12
2. 切断方法 …… 12
3. 安全カバーの脱着方法 …… 13
4. パワージョイントの連結 …… 13

2 運転を始める前の点検

1 運転前の点検 …… 14

1. トラクタ各部の点検 …… 14
2. 連結部の点検 …… 14
   (1) ヒッチ部の点検 …… 14
   (2) パワージョイントの点検 …… 14
   (3) 電装コネクタの点検 …… 14
3. 製品本体の点検 …… 14
4. 重要点検箇所 …… 15

2 エンジン始動での点検 …… 16

1. 油圧系統の点検 …… 16
2. 電気系統の点検 …… 16

3 給油箇所一覧表 …… 17

3 作業の仕方

1 本製品の使用目的 …… 18

2 作業の種類 …… 18

1. 吸入作業 …… 18
2. 排出作業 …… 19
3. マンホールからの注入 …… 19

3 ステアリング装置の操作 …… 19

1. ステアリング装置の使用方法 …… 19
2. ステアリング装置使用時の注意 …… 19

4 移動走行 …… 19

3 5 各部の調整……20
1．オープンハッチ ……20
2．連成計 ……20
3．吸入自動停止装置 ……20
4．ポンプ ……21
5．タンク傾斜 ……21
6．輪止め ……21

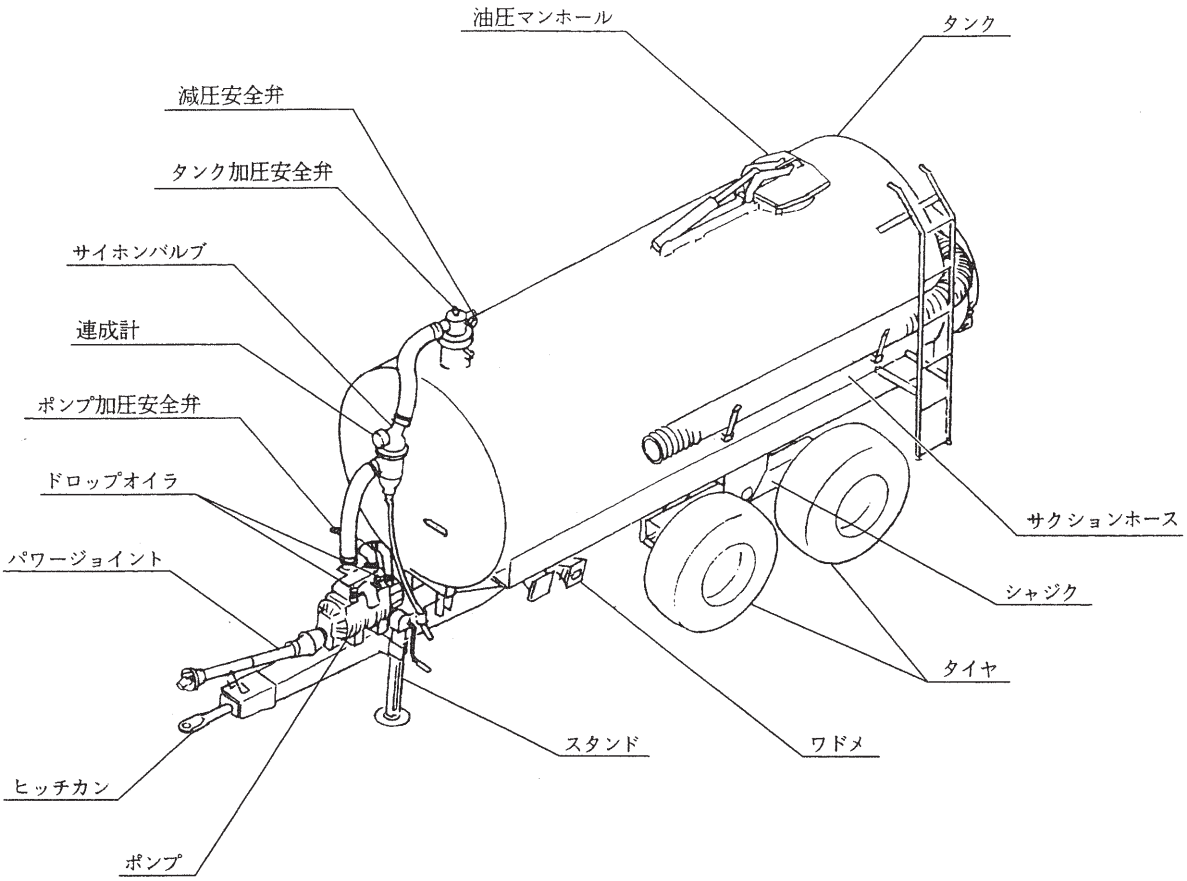
4 作業が終わったら
1 作業後の手入れ……22
2 長期格納するとき……22

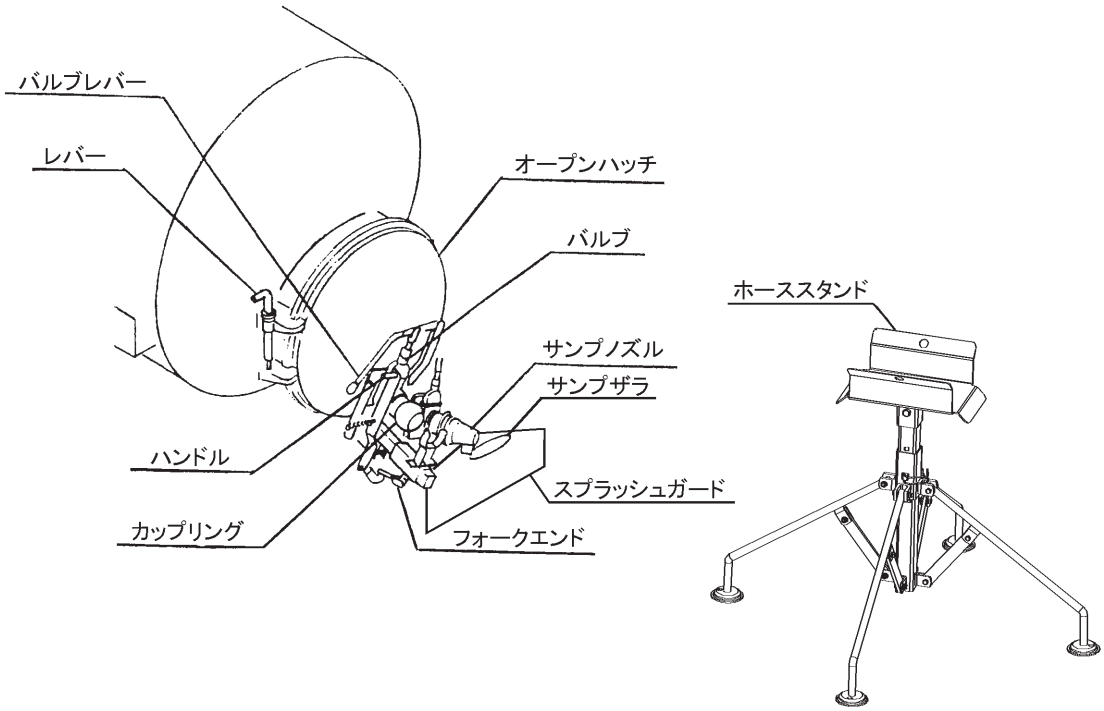
5 点検と整備について
1 点検整備一覧表……24
2 電球の交換……24

6 不調時の対応
1 吸入時の不調……25
2 不調処置一覧表……25

1　トラクタへの装着

1　各部の名称とはたらき





1．ヒッチカン
トラクタに連結し、けん引します。
2．スタンド
作業機をトラクタから外したときに使用します。高さ調整はハンドルで行います。
3．ポンプ
タンク内を加圧、減圧します。
4．サクションホース
カップリングに接続し、水や糞尿のくみ上げに使用します。
5．サンプノズル
水や糞尿を散布する吐出口です。
6．オープンハッチ
タンク後部のハッチ部分が開き、タンク内の点検や清掃ができます。
7．バルブ
水や糞尿をくみ上げ時に使用します。バルブレバーを上げるとバルブが開き、バルブレバーを下げるとバルブは閉じます。
8．ドロップオイラ
ポンプにオイルを供給する点滴装置です。
9．加圧安全弁
水や糞尿の排出時、タンク内の圧力を一定に保つための安全弁です。
ポンプとタンクの２ヶ所に設備しています。
10．真空安全弁
水や糞尿の吸入時、タンク内の圧力を一定に保つための安全弁です。
11．連成計
タンク内の圧力を表示します。黒目盛は排出圧力を、赤目盛は真空度を表示します。
12．サイホンバルブ
タンクが満タン時、水や糞尿がポンプ内に流入するのを防ぐ吸入自動停止装置です。同様の装置をタンク上部にも設備しています。
13．油圧マンホール（TVC11040 のみオプション）
スラリーポンプ等を使用してタンク上部から糞尿を注入する場合に使用します。フタの開閉は、トラクタの複動外部油圧で行います。
14．ブレーキ
トラクタのトレーラブレーキ取り出し口に接続して、ブレーキをかけます。
15．スプラッシュガード
糞尿等の機体への跳ね返りを抑えます。

２　適応トラクタの範囲

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるように設計されています。
不適切なトラクタとの装着によっては本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。
この製品の適応トラクタは次のとおりです。

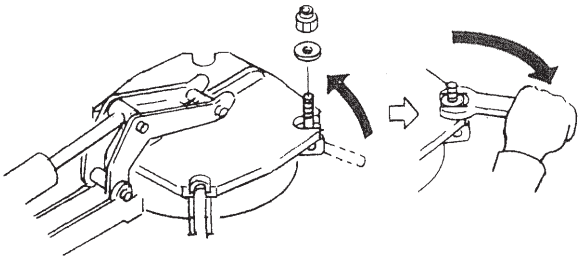
型　　式	適応トラクタ
TVC11040	73.5 ～ 110 kW (100 ～ 150 PS)
TVC13040DX	81 ～ 125 kW (110 ～ 170 PS)

※ その他、トレーラブレーキ取り出し口が必要となります。

３　組立部品

１．解梱
（1）タンク内にはパワージョイント、連成計、サンプノズル、ホーススタンドが入っています。
サクションホースはお客様選択です。４″または５″のホースをご指定の方はタンク内に入っています。６″ご指定の方はタンク側面のホース受けに取り付けています。
（2）タンク後方の左側面に取り付けのレバーでハッチを開け、取り出してください。
（3）取り出し後はハッチを元通り確実にロックしてください。（「3-3-1 オープンハッチ」参照）

２．組立
（1）サイホンバルブ上部のメクラキャップをはずし連成計を取り付けてください。
（2）ハッチのカップリングにサンプノズルを取り付けてください。（工場出荷時はサンプノズルにサンプザラ、スプラッシュガードが取り付いています。）
（3）油圧マンホールを使用しない場合は、マンホールキャップをワッシャ、ナイロンナットで固定してください。



3．ホーススタンドの設置

工場出荷時は折畳んだ状態でタンク内に入っています。タンクから取り出し、作業場に設置してください。

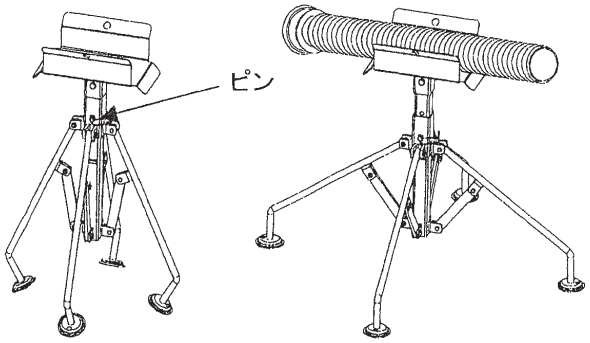
＜設置方法＞

（1）ピンを外してください。

（2）４本足のうち、隣り合った足の２本を持ち広げてください。

（3）ピンを取り付けてください。

（4）作業場にスタンドを設置してください。
サクションホースを載せてみて、スタンドがぐらつく場合は足部の穴に杭等を打ち込んで固定してください。
また、サクションホースが滑り落ちる場合は、ホース受け部の穴にロープ等を用いてサクションホースとスタンドを結び付けてください。



折畳み状態　　設置状態

4　トラクタへの装着

1．ドローバへの連結

⚠ 警 告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。
  トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。
- 作業機をトラクタから切り離すときは、必ず平坦な場所で行い、スタンドを接地させ、輪止めを使用してください。
  守らないと、作業機が不意に動き出し、挟まれて死亡または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注 意

- 作業機をトラクタに連結するとき、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行なうと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行なってください。
- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
  トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

（1）トラクタのけん引ヒッチ高さに作業機のヒッチカン高さを合わせます。（スタンドのハンドルで調整します）

（2）トラクタのエンジンを始動して、トラクタを後進させ作業機のヒッチカンの穴に合わせエンジンをとめます。

（3）トラクタに付属のヒッチピンを通し連結し、抜けどめにリンチピン等をヒッチピンに差してください。

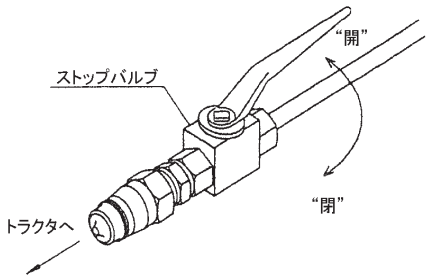
取扱い上の注意

ヒッチピンには抜け止めのため、必ずリンチピンあるいはベータピンを確実に挿入してください。

（4）トラクタとセットされたらスタンドを一番短い状態まで上げ、折りたたんでください。

２．トラクタ油圧取り出し口との接続

（１）本作業機のサンプバルブの開閉は単動油圧仕様となっています。
トラクタの油圧取り出し口に本作業機の油圧カプラ（１／２オス）を接続し、ストップバルブを開けてください。



（２）本作業機のブレーキは油圧仕様となっています。ブレーキ用カプラをトラクタのトレーラブレーキ取り出し口に接続してください。

取扱い上の注意

本作業機のブレーキはトレーラブレーキ専用です。
トラクタにトレーラブレーキ取り出し口が装備されていなければ使用できません。

（３）本作業機のステアリング装置（TVC13040DX のみ）は複動油圧仕様となっています。
トラクタの複動油圧取り出し口に、本作業機の油圧カプラ（１／２オス）を接続してください。

３．ユアツマンホールアタッチメントとトラクタ油圧取り出し口との接続

(AYM8800 ユアツマンホールアタッチメント装着時)

取扱い上の注意

マンホールキャップをボルトで固定したまま、油圧カプラをトラクタ外部油圧取り出し口に接続しないでください。タンクが破損するおそれがあります。

ユアツマンホールの開閉は、油圧使用になっています。

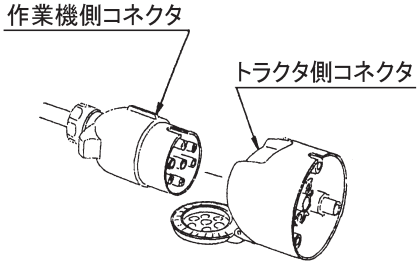
（１）ユアツマンホールは複動油圧を使用します。カプラは１／２オスが取り付いています。
（２）トラクタの油圧取り出し口に間違わないようカプラを接続してください。

４．電装の接続

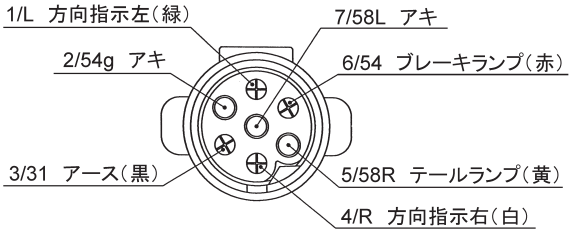
取扱い上の注意

トラクタに電装品の結線をするとき、エンジンキーをＯＦＦにしないで行うとショートする事があります。
エンジンキーをＯＦＦにして行ってください。

作業機にはトラクタと連動するテールランプを装備しています。
電装はトラクタとコネクタで接続します。
トラクタ側の外部電装品取り出し口がＤＩＮ規格７Ｐコネクタで装備されている場合は、そのまま作業機側コネクタをトラクタ側コネクタに接続してください。



トラクタ側に外部電装品取り出し口が装備されていない場合は、別途電気配線が必要となります。
作業機側コネクタの配線は下図の通りです。なお、コネクタは接続面方向から見ています。



５　パワージョイントの装着

⚠ 危 険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
  カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
  損傷したらすぐに取り替えてください。
  使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱するとき、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。
  ＰＴＯを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。
  トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

⚠ 注 意

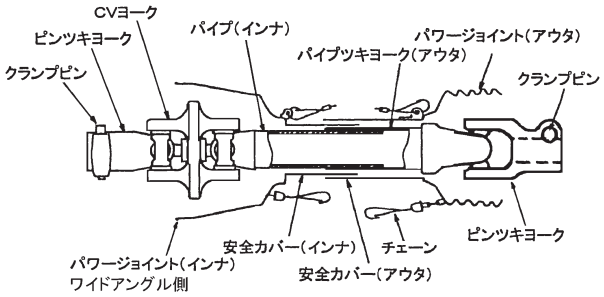
- 最伸時の重なりが１００㎜を下回ると、ジョイントを回転させたとき、破損しケガをする事があります。
  最縮時の隙間が２５㎜よりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
  適正な重なり量で使用してください。

１．長さの確認方法

（１）作業機をけん引しながら前進し、トラクタと作業機がほぼ一直線になった状態で停止してください。
（２）パワージョイント単体で、最縮長時の安全カバー（アウタ）端部位置を安全カバー（インナ）にマーキングしてください。
（３）パワージョイント（アウタ）から、パワージョイント（インナ）を引き抜いてください。
（４）ピン付ヨークのクランプピンを押して、パワージョイントのインナとアウタをＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸に連結し、クランプピンが元の位置に出るまで押し込んでください。
（５）安全カバー同士を重ね合わせたとき、パイプ（アウタ）とパイプ（インナ）の重なり量が１００㎜以下の場合は、販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。
（６）ＰＴＯ軸およびＰＩＣ軸からパワージョイントのアウタとインナを取り外してください。
（７）作業機をけん引しながら旋回し、作業機ドローバ側面とトラクタのタイヤの間隔が約５㎝程度になったとき、停止してください。
（８）ピン付ヨークのクランプピンを押して、パワージョイントのインナとアウタをＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸に連結し、クランプピンが元の位置に出るまで押し込んでください。
（９）安全カバー同士を重ね合わせたとき、安全カバー（アウタ）端部位置とマーキング位置の間隔が２５㎜以下の場合は、２５㎜間隔を保つように切断方法の手順に基づき切断してください。

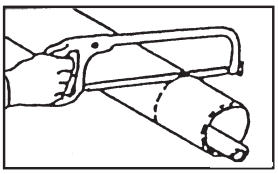
取扱い上の注意

パワージョイントを上下に重ね合わせたとき、トラクタのタイヤに接触し、ほぼ直線状にならない場合は、ドローバ側面とトラクタのタイヤの間隔が広くなるようにトラクタを移動してください。

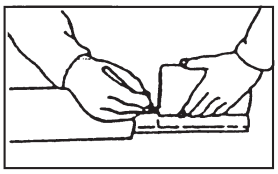


２．切断方法

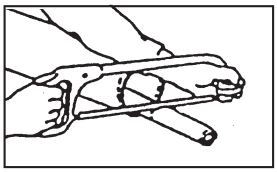
（１）安全カバーのアウタ・インナ両方を長い分だけ切ります。



（２）切り取った同じ長さをパイプの先端から計ります。



（3）パイプのアウタとインナ両方を金ノコまたはカッターで切断します。
切断するときは、パイプの中にウエスを詰め、パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでください。

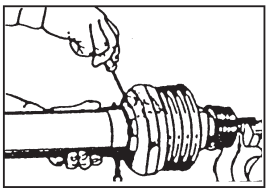


（4）切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げてからパイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、アウタとインナを組み合わせます。

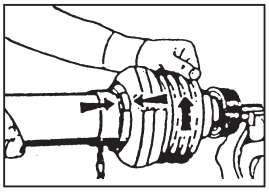
3．安全カバーの脱着方法

（1）安全カバーの分解手順

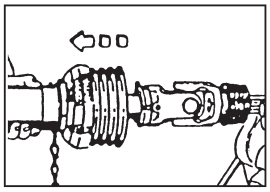
① 固定ネジを取り外してください。



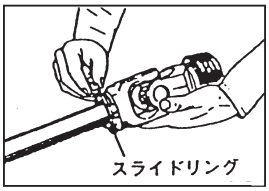
② 安全カバーを取り外し位置へ回してください。



③ 安全カバーを引き抜いてください。

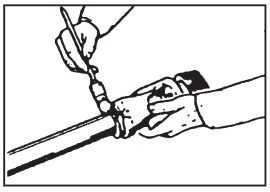


④ スライドリングを取り外してください。

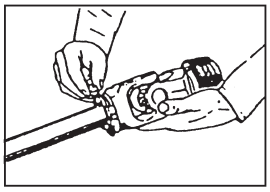


（2）安全カバーの組立手順

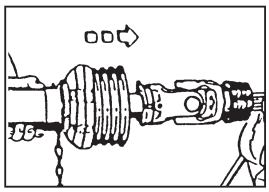
① ヨークのスライドリング溝とパイプ（インナ）にグリースを塗ってください。



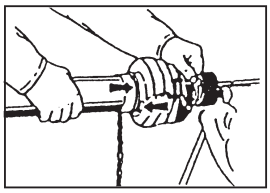
② スライドリングのつばをパイプ側に向け、切り口を開いて溝にはめてください。



③ その上に安全カバーをはめてください。



④ カバーをしっかりとまるまでまわしてください。



⑤ 固定ネジを締め付けてください。

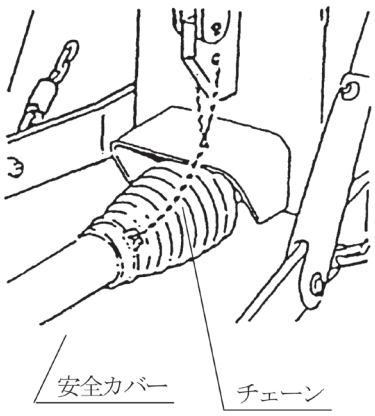
4．パワージョイントの連結

（1）ピン付ヨークのクランプピンを押して、ワイドアングル側をトラクタＰＴＯ軸に、他方をＰＩＣ軸に連結し、クランプピンが元の位置に出るまで押し込んでください。

⚠ 注 意

- パワージョイントを接続したとき、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをする事があります。
溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

（2）安全カバーのチェーンを固定した所に取り付け、カバーの回転を防いでください。
チェーンは旋回時の動きに順応できる余裕を持たせ、また他へひっかかりなどがないように余分なたるみを取ってください。



2　運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1　運転前の点検

1．トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき点検を行ってください。

2．連結部の点検

（1）ヒッチ部の点検

① トラクタのけん引ヒッチと本作業機のヒッチの連結部点検。

② ヒッチピンにはリンチピン・ベータピン等の抜け止めが確実に挿入されているか。

（2）パワージョイントの点検

① ジョイントの抜け止めのクランプピンが、軸の溝に納まっているか。

② ジョイントカバーのチェーンの取り付けに余分なたるみはないか。また、適度な余裕があるか。

③ ジョイントカバーに損傷はないか。
損傷している場は、すみやかに交換してください。

④ 不具合が見つかったときは、「1-5　パワージョイントの装着」の説明に基づき不具合を解消してください。

（3）電装コネクタの点検

① トラクタの電源コネクタと確実に接続されているか。

② 電装コードに余分なたるみはないか。また、適度な余裕はあるか。

3．製品本体の点検

（1）ポンプのベーン用およびギヤ用オイルが十分入っているか確認します。

（2）吸入自動停止装置のボールがスムーズに作動する状態にあるか確認します。

（3）安全弁のチェックリングを引いて、スムーズに作動することを確認します。

（4）オープンハッチ、マンホール等が完全に閉じられていることを確認します。

（5）各部のボルト・ナットのゆるみを確認します。
安全上特に重要な部分のボルト・ナットについては、「5-1-4　重要点検箇所」に基づき、ゆるみがないか点検してください。

（6）サイホンバルブ下部のコックが締っているか。
（㊀→レバー横向）

（7）タイヤの亀裂、損傷はないか。
また、タイヤの溝深さは適正か。異常摩耗はないか。不具合が見つかったときは部品を交換してください。

（8）タイヤの空気圧は適正か。

⚠ 警 告

● 適正空気圧を厳守してください。
特に空気の入れ過ぎには十分注意してください。
　守らないと、タイヤが破裂し、死亡または重傷を負う危険性があります。

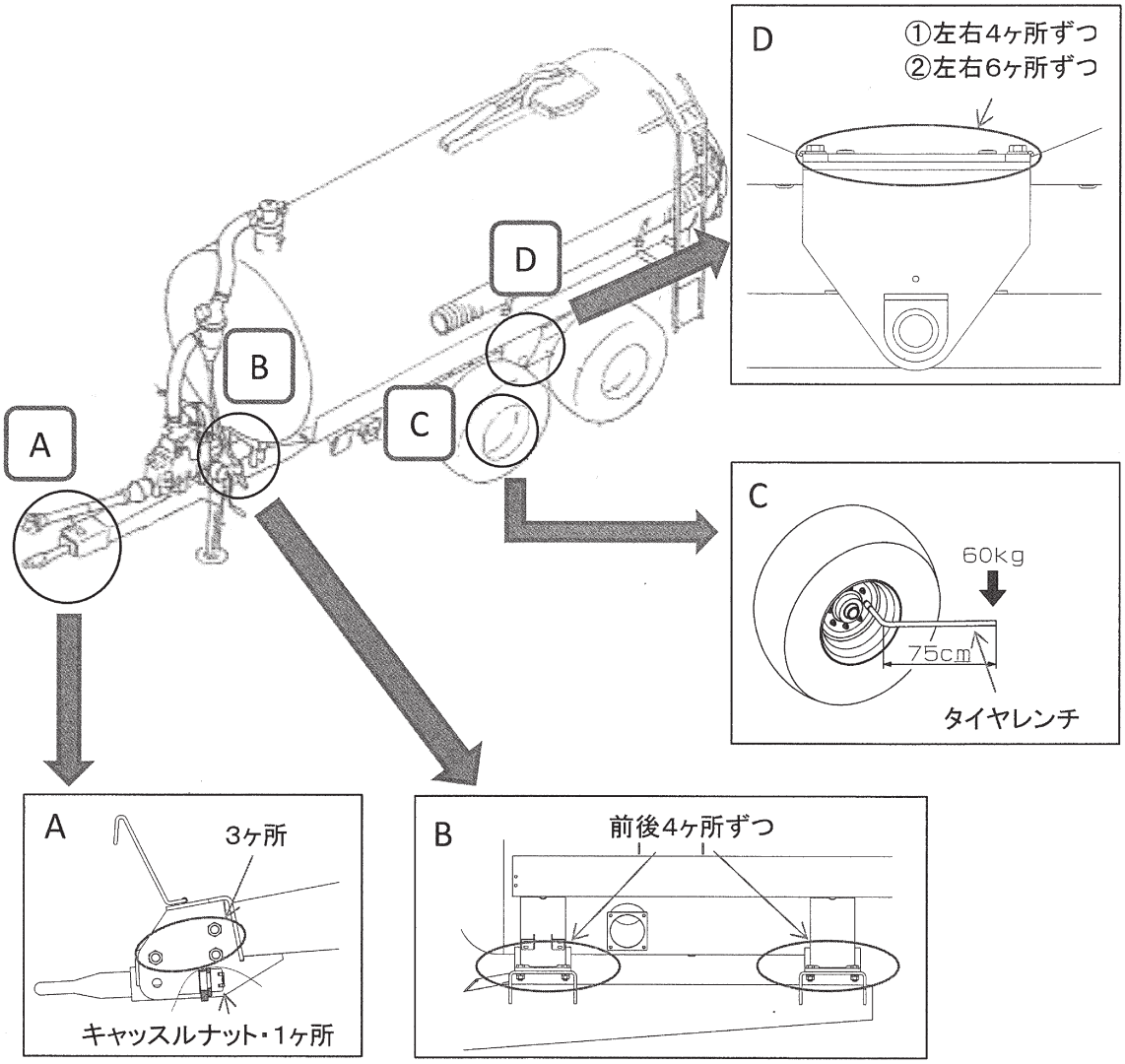
不具合が見つかったときは表に基づき適正空気圧にしてください。

型式	TVC11040 TVC13040DX
タイヤサイズ	550 ／ 60-22.5-12PR
空気圧	225kPa (2.3kg ／ cm^2)

4. 重要点検箇所

⚠ 警 告

- 重要点検箇所は、毎日の始業前に必ずボルト・ナットのゆるみの点検を行い、ゆるみのあった箇所は表に基づき増し締めを行ってください。
  守らないと、機械に巻き込まれる等の思わぬ事故により、死亡または重傷を負う危険性があります。



部位	重要点検箇所	ねじサイズ	工具2面幅 [mm]	締結数 [箇所]	締付けトルク [N･m]	備考
A	ヒッチカン	M36 × 1.5	54	1	143	※1参照
	ヒッチ取り付け部	M20	30	3	360 ～ 440	増し締め
B	ドローバとタンクの連結部	M20	30	8	360 ～ 440	増し締め
C	ホイールナット	M20 × 1.5	27	32	400 ～ 450	増し締め、タイヤレンチ使用
D①	車軸とタンクの連結部	M20	30	8	360 ～ 440	増し締め　TVC11040
D②		M20	30	12	360 ～ 440	増し締め　TVC13040DX

※1 ゆるみがあれば規定トルクにて増し締めし、その後ワリピンの入る溝の位置が合うまでさらに締めこんでください。このとき、ワリピンは再使用せず、新品に交換してください。

２　エンジン始動での点検

１．油圧系統の点検

トラクタのエンジンを始動させ、油圧を操作し、後部ハッチに取り付けのバルブ開閉がスムーズであれば異常ありません。
（サンプノズルをはずして確認します。）

（１）ブレーキに異常はないか。ブレーキ用のカプラを接続し、トラクタのブレーキペダルを踏み、ブレーキ用シリンダが動作するか確認してください。
（２）ステアリング装置に異常はないか。（ＴＶＣ13040 ＤＸ）ステアリング用のカプラを接続し、トラクタ油圧レバーを操作して、ステアリング用シリンダが動作するか確認してください。

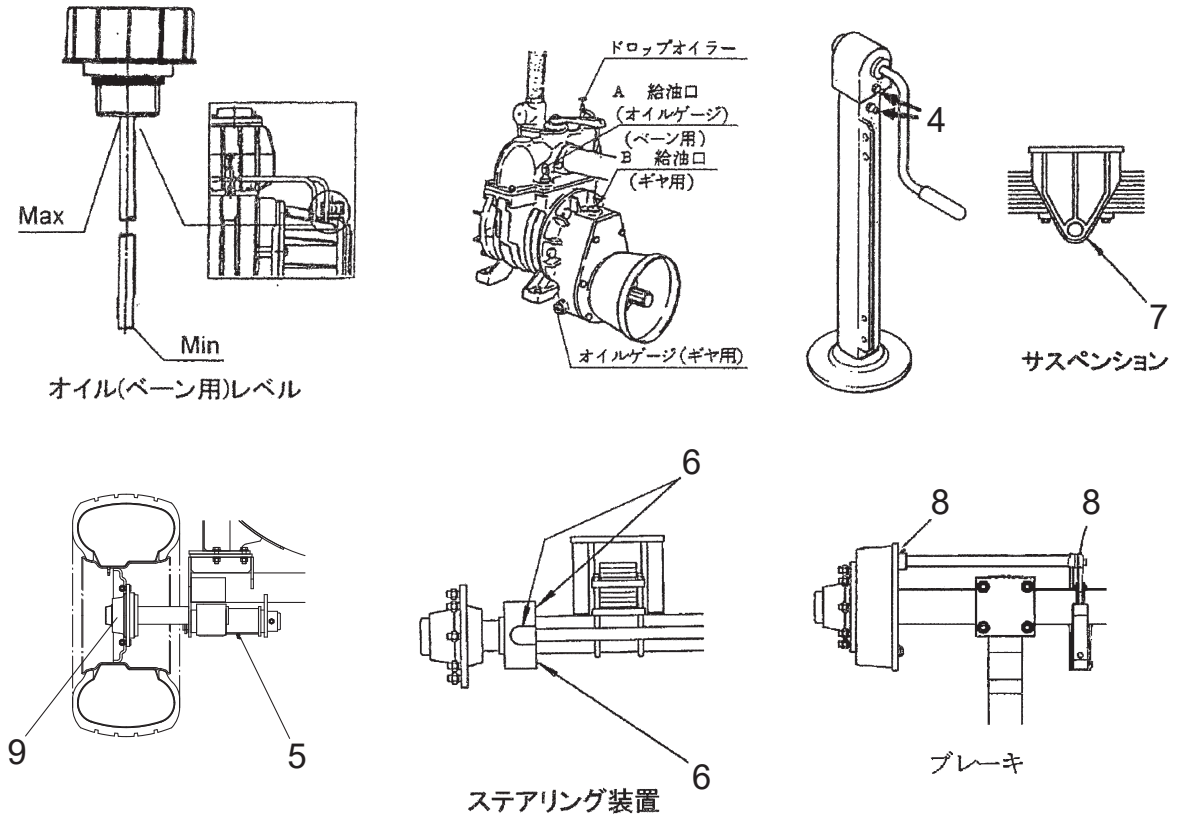
油圧系統に異常が見つかったときは、「6-1　不調処置一覧表」に基づき処置してください。
トラクタ油圧系統などに異常があるときは、トラクタ販売店にご相談ください。

２．電気系統の点検

トラクタのブレーキ・ウインカーの操作をして、バキュームカーのテールランプが正しく連動するか確認してください。

3　給油箇所一覧表

○　給油・塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
○　グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



No.	給 油 場 所	箇所	潤滑油の種類	交 換 時 期	量	備　考
1	ポンプ（ベーン）	1	ディーゼルエンジンオイル 10 W -30	使用ごと	適量	補充
2	ポンプ（ギヤ）	1	ギヤオイルＶＧ 220	新規購入後 50 時間	250 cc	交換
3	パワージョイント	-	グリース２号	作業シーズンごと	適量	給脂（グリースニップル）
4	スタンド	2	〃	〃	〃	〃
5	車軸メタル（TVC11040）	2	〃	〃	〃	〃
6	ステアリング装置（TVC13040DX）	6	〃	〃	〃	〃
7	サスペンション（TVC13040DX）	2	〃	〃	〃	〃
8	ブレーキ	4	〃	〃	〃	〃
9	ハブ（ブレーキ無）	2	〃	2,000km 走行ごと	〃	〃

3　作業の仕方

安全を確認して慎重に作業してください。

1　本製品の使用目的

1．本製品は、水、家畜の糞尿を汲み上げ、散布する機械です。
2．法的規制のある薬物、危険物の運搬、散布等には使用しないでください。

2　作業の種類

⚠ 注 意

- ＰＴＯを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
  ＰＴＯを切ってから始動してください。
- 作業をするとき、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。
  周囲に人を近づけないでください。
- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。
  低速で作業してください。
  下り作業をするとき、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。
  坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。
- 突起物を折りたたまずに移動走行すると、障害物などにぶつかりケガをする事があります。
  折りたたんで、移動させてください。

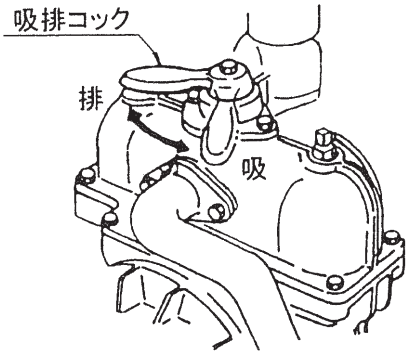
1．吸入作業

本作業機には吸入バルブの取り付け位置がタンク左右と後部ハッチの３ヶ所にあります。便槽の位置、通路等の立地条件に合わせ、バルブを付け替えて使用してください。（工場出荷時は後部ハッチに取り付いています）

（1）サクションホースを便槽に入れます。
深い便槽では全部落ち込んでしまうことがあります。角材等を利用しホースと結ぶ等、落ち込み防止を工夫しましょう。
ホーススタンド使用時には、ホースとスタンドをロープ等で結びつけ、スタンドが動かないように固定してください。

（2）本作業機にはサクションホースのワンタッチ装着装置が標準装備となっています。サクションホースのアダプタ部をホースウケに乗せ、ハンドルを倒す（横向きにする）とカップリングと接続されます。（取りはずしは逆手順となります）

（3）ポンプの吸排コックを㊥の位置にしてトラクタのエンジンを始動させます。
ＰＴＯを低速回転（２００～３００rpm）で入れ、ポンプを始動させてください。



ポンプ本体

☆ 汲み上げるものの状態（粘度、水分等）により回転数、真空度を変え効率の良い作業を行ってください。

① 泡立がない水・尿
ＰＴＯ回転数　450 ～ 500rpm
真空圧力　- 0.05 ～ - 0.07 ＭＰａ
(40 ～ 50cmHg)

② 泡立の多い尿・糞尿
ＰＴＯ回転数　300 ～ 400rpm
真空圧力　- 0.04 ～ - 0.05 ＭＰａ
(30 ～ 40cmHg)

③ メタンガスが発生している糞尿
ＰＴＯ回転数　200 ～ 300rpm
真空圧力　- 0.03 ～ - 0.04 ＭＰａ
(20 ～ 30cmHg)

取扱い上の注意

泡立ちが多かったり、メタンガスが発生している尿・糞尿を汲み上げるとき、ホースが長いと吸入抵抗が増加します。
必要な長さを決めて、余分な部分は切断してください。

（4）連成計が所定の真空圧になったら、バルブを開き（レバーを上げる）吸入を始めてください。

（5）タンク前面の液面ゲージが満タンを示したら、バルブを閉じ吸排コックを㊥㊦の中間にしてＰＴＯを停止します。

取扱い上の注意

タンク内にメタン発生中の糞尿を入れたままで、２０～３０分以上放置する場合および、散布場所への移動中は、タンク内に圧力が掛からないように、ポンプの吸排コックを中間位置（吸と排との間）にして、タンク内に外気が出入りできる状態にしてください。

２．排出作業

（1）ポンプの吸排コックを㊦の位置にして、トラクタのエンジンを始動させます。
ＰＴＯを低速回転（２００～３００rpm）で入れ、ポンプを始動させてください。

（2）連成計が常用吐出圧力｛0.07Mpa（0.7kgf／cm²)｝になったら、走行と同時にトラクタの油圧レバーを操作し、バルブを開き散布してください。

（3）散布量は吐出圧力とトラクタの速度により異なります。ほ場の状態等に合わせ適時選択してください。

３．マンホールからの注入
（油圧マンホール使用の場合）

（1）注入作業

取扱い上の注意

マンホールキャップをボルトで固定したまま、油圧カプラをトラクタ外部油圧取り出し口に接続しないでください。
タンクが破損することがあります。

お手持ちのスラリーポンプを使用してタンクに注入する場合は、タンク後部のマンホールを使用します。
マンホールを開けるときは、タンク内の圧力が0（ゼロ）になっている事を確認してから行ってください。

（2）排出作業
タンクを加圧したときに、マンホールキャップから糞尿が漏れる場合には、ユアツマンホールの“閉”操作を再度行って保持圧力を上げてから排出作業をしてください。

３　ステアリング装置の操作

本作業機のステアリング装置（ＴＶＣ 13040 ＤＸ）は、トラクタの旋回に合わせ、四輪タンデム車軸の後輪タイヤが追従します。

１．ステアリング装置の使用方法
ステアリング装置は、油圧シリンダを操作して、後輪タイヤが追従する状態と固定される状態のいずれかを選択します。

（1）油圧シリンダ；縮
コーナリング等の路面抵抗により、後輪タイヤが追従します。

（2）油圧シリンダ；伸
コーナリング等の路面抵抗に関わらず、後輪タイヤは直進状態に固定されます。

２．ステアリング装置使用時の注意
後進時は、後輪タイヤを直進状態に固定して走行してください。

４　移動走行

⚠ 警 告

- 作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。
移動走行するときは、ＰＴＯを切ってください。
- 移動走行するとき、後輪タイヤが直進状態に固定されていないと、路面の凹凸等で作業機が左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。
ステアリング装置の油圧シリンダを伸ばし、後輪タイヤを直進状態にして低速走行してください。

１．本作業機に水や糞尿を積載して移動するとき、トラクタの操縦性は空車時とは大きく変化します。
水や糞尿の積載により、トラクタの前輪荷重割合が減少し、ハンドルの切れ味が低下したり、ブレーキをかけたときの制動距離が長くなるなどの現象としてあらわれます。
移動走行するときは、ステアリング装置の油圧シリンダを伸ばし、後輪タイヤを直進状態に固定して低速走行し、ブレーキ操作は早めに行ってください。

２．後退時は、ステアリング装置（ＴＶＣ 13040 ＤＸ）の油圧シリンダを伸ばし、後輪タイヤを直進状態に固定して走行してください。

5　各部の調整

⚠ 注 意

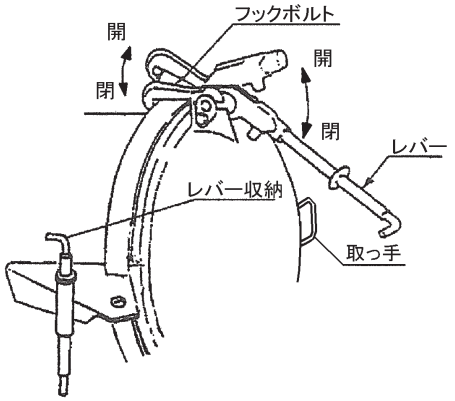
- 機械の調整や、付着物の除去などを行うとき、ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

取扱い上の注意

安全弁のセット圧力を調整するとタンク内の圧力が上昇しすぎ、機体を破損させることがあります。
調整しないでください。

1. オープンハッチ

（1）ハッチはタンク後部に備え付いているレバーでフックボルトを外して開きます。



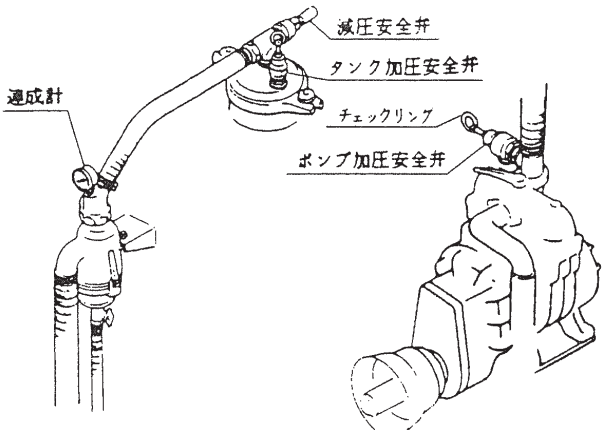
⚠ 警 告

- タンクが加圧されているとき、ハッチを開けると急に開き、ケガをする事があります。加圧されているときは、開けないでください。
「吸入・排出」時以外は、ポンプのコックを㊥・㊦の中間の位置にしてください。
- タンクが加圧されているとき、ポンプのコックを操作するとタンク上部の安全装置が働き、連成計が“0”を表示していてもタンク内に圧力が残り、ハッチを開けると急に開きケガをする事があります。
吸入または排出バルブを開け、タンク内の圧力を取り除いてから、ハッチを開けてください。

（2）ハッチを閉じるときは、取っ手を持ち上げ、取っ手の下のフックボルトから締め始め、左右上下が均等になるようにフックボルトを締めてください。また、各フックボルトが均等に締まるようにフックボルトの長さを調整して締めてください。

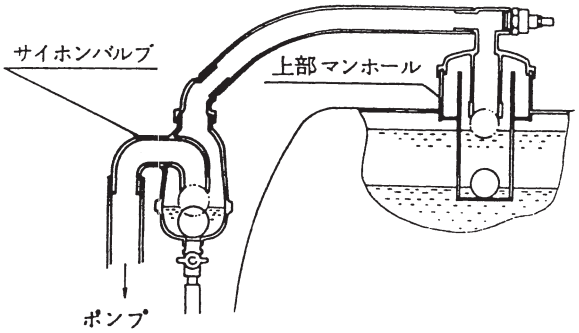
2. 連成計

タンク内の圧力を表示します。
外側の数字は従来の単位です。
内側の数値は国際単位（ＳＩ）です。
黒目盛 ……常用吐出圧力（排出）は、0.07Mpa（0.7kgf ／ cm^2）です。
赤目盛 ……常用真空度（吸入）は、-0.07MPa（- 0.7kgf ／ cm^2）です。



3. 吸入自動停止装置

吸入自動停止装置は、上部マンホール部と、サイホンバルブの２ヶ所に装備されています。
タンクが満タンになると、ボールが押し上げられ、吸入が自動的にストップします。
万一、糞尿が流入した場合、サイホンバルブが働き、ポンプ内への流入を防止します。
サイホンバルブ内に液がたまったらコックを開き排出してください。

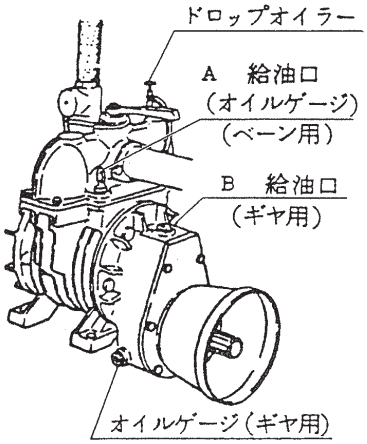


４．ポンプ

ベーン用オイルの滴下量は、１分間に３０～４０滴が理想です。
ポンプのドロップオイラ頭部のつまみを回し、調整してください。

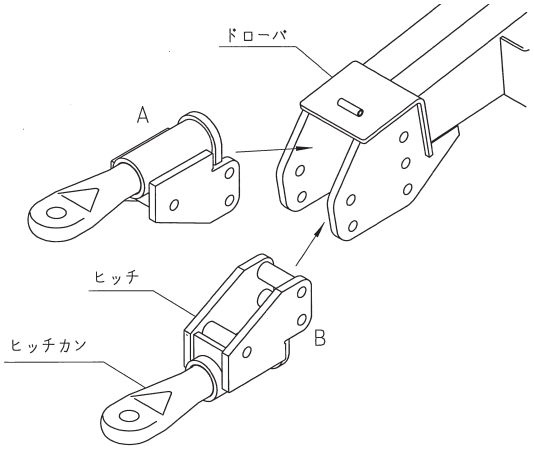
取扱い上の注意

ポンプの連続運転時間は最大６～８分程度です。
この時間を越えて作業すると、ポンプが破損することがあります。
特に、次のような使用のときは作業の所要時間が長くなり、ポンプ本体の表面温度が上昇します。
８０℃以上にならないよう休止期間も入れ、注意してから運転してください。
㋑標準（7m）より長いホースで吸入するとき
㋺標準より細いホースで吸入するとき
㋩細いホースを使用して排出するとき
㋥糞尿の粘度が高いとき



５．タンク傾斜

出荷状態では、TVC11040はAの向き、TVC13040DXはBの向きにセットされています。出荷状態よりもタンクを傾斜させたい場合は、ヒッチの向き、取り付け位置をかえて調整してください。

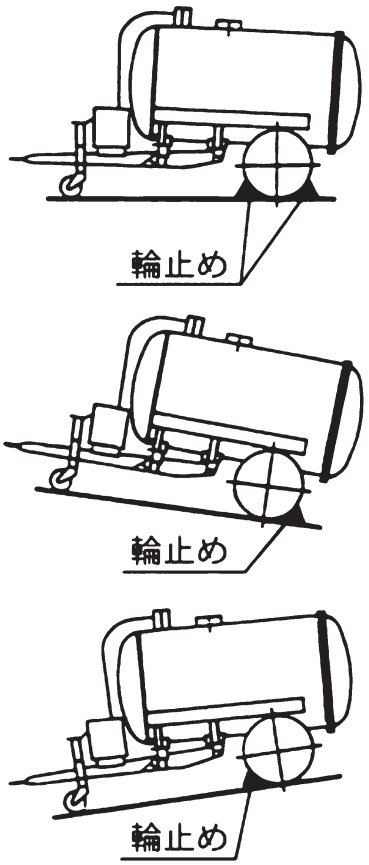


６．輪止め

⚠ 警 告

● 駐・停車は必ず平坦な場所で行い、輪止めを使用してください。
守らないと、作業機が不意に動き出し、挟まれて死亡または重傷を負う危険性があります。

（1）輪止めはタンクの両サイドに装備されています。
（2）平坦な地面においても、若干の傾斜が見受けられる場合は、図の要領でタイヤに輪止めを使用し、作業機が動かないことを確認してください。
（3）使用後は元の位置に収納してください。



4　作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

⚠ 警 告

- タンク内に入るときは、必ず十分に換気をしてください。
　守らないと、酸欠により死亡または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注 意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
　ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

1　作業後の手入れ

1．使用後は、タンク内および自動吸入停止装置を水洗いしてください。
2．吸入ホースは、糞尿槽から引き上げ、タンクのホース掛けに収納してください。
3．バルブ内の水、糞尿をすべて排出させ、バルブを開にして格納してください。
4．冬期間、バルブおよびポンプを凍結させないように注意してください。
5．ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないか。また、破損部品がないか。
　異常があれば、ボルトの増し締め、部品の交換をしてください。
6．ＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸、ジョイントスプライン部など塗装されていない露出部は、さびを防ぐためグリースを塗布してください。

2　長期格納するとき

1．機体各部の清掃をしてください。
2．摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
3．「2-3　給油箇所一覧表」に基づき、油脂を補給してください。
　また、回転、回動支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部には注油し、ＰＴＯ軸、ＰＩＣ軸、パワージョイントのスプライン部にはグリースを塗布してください。
4．塗装損傷部を補修塗装、または油を塗布し、さびの発生を防いでください。
5．格納は風通しのよい屋内に保管してください。
6．ポンプの内部は、外気との温度差により、結露を生じやすく、長期間放置しておくとさびを助長し、ポンプの破損原因となります。
　長期間使用しない場合は、定期的（２週間ごと）にポンプを空運転して、オイルを循環させさびを防止してください。

5　点検と整備について

調子良く作業するために、定期的に行いましょう。
機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「5-1 点検整備一覧表」に基づき、各部の点検・整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

⚠ 警 告

- タンク内に入るときは、必ず十分に換気をしてください。
  守らないと、酸欠により死亡または重傷を負う危険性があります。
- タンク上部の点検、整備時はヘルメットを着用し、タンクに設置しているハシゴ、もしくは脚立を使用して、タンクに直接乗らないでください。
  守らないと、転落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注 意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があるます。ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいは作業機の急な降下で、ケガをする事があります。
  補修もしくは部品交換してください。
  継手やホースを外すときは、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

1　点検整備一覧表

時　　間	チェック項目	処　　置
新品使用１時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
使用後 45 ～ 50 時間	ポンプギヤ用	オイル交換（以降は 200 時間ごと交換）
使 用 ご と （始業終業点検）	① 機械の清掃 ② ポンプのベーン用オイル ③ 部品脱落・破損部 ④ 各部のボルト・ナットのゆるみ ⑤ 各部油もれ ⑥ 各部の油脂類 ⑦ タイヤの空気圧 ⑧ ホイールナットのゆるみ ⑨ タイヤの亀裂・損傷・異常摩耗	補充 補充、交換 「2-1-3 製品本体の点検」に基づき増し締め シールチェック、破損時交換 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油、給脂 「2-1 運転前の点検」に基づきチェック 〃 交換
シーズン終了後	ポンプ ① 各部の損傷、摩耗 ② 機械の清掃 ③ 各部の給油、給脂 ④ 塗装損傷部 ⑤ タイヤの溝深さ	２週間ごとにポンプを回転させ、オイルを循環させる 早めの部品交換 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油、給脂 塗装または油塗布 溝が浅ければ交換
2,000km 走行ごと	ハブのガタつき ハブのグリーズ量	キャッスルナットの増し締め、またはベアリングの部品交換 グリース交換・補充

2　電球の交換

テールランプの電球を交換する際はレンズを取り外して行います。
電球は当社推奨の規格を使用してください。

	定　格	スタンレー品番 (参考)
ウ イ ン カ ー	12V 21W S25	BP4575B
尾　　灯	12V 21W/5W S25	BP4875B
制　動　灯		

6　不調時の対応

1　吸入時の不調

通常、常用真空圧になるには１分間前後の時間がかかります。
吸入状態でＰＴＯ回転後数秒で常用真空圧に達するとき、

（1）タンク内の自動吸入停止装置が働いています。
　　（ボールが吸付いている）
　　タンク内に圧力が残っています。

（2）一度ポンプの吸排コックを㊞にし、数秒間ＰＴＯを回転させると吸い付いているボールがはなれます。

（3）ＰＴＯを停止させ、ポンプの吸排コックをゆっくり㊧㊞の中間位置にし、タンク内の圧力を排出します。

（4）圧力が排出され連成計の圧力ゲージが「０」を指したら、吸排コックを㊧にし、「3-2-1　吸入作業」の手順に基づき作業してください。

上記以外の不具合が発生したら、「6-2　不調処置一覧表」に基づき処置してください。

2　不調処置一覧表

⚠ 注 意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
  平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ＰＴＯおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
  ＰＴＯを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいは作業機の急な降下で、ケガをする事があります。
  補修もしくは部品交換してください。
  継手やホースを外すときは、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

症　　状	原　　因	処　　置
サクションホースのアダプタとカップリング部からエアーを吸う	押え付け不足	フォークエンドで調整する
ポンプ異常発熱	オイル量が不足	適正量までオイルを注入する
	ベアリング、ギヤ、シャフト破損	部品交換する
	標準以外のホース（径、長さ）で長時間作業したとき	休止させる
タンク満タンに汲めない	サクションホースとアダプタ継目からのエアー吸い込み	クランプの増し締め（シール剤注入）
	発酵過程でメタンガスが発生している	ＰＴＯ回転数を下げる（200 ～ 300rpm） 真空圧力を下げる（－ 0.03 ～－ 0.04Mpa）
オープンハッチ、マンホールからエアー漏れ	フック締め付け不足	フックをはずしフックボルトの長さ調整し、再度締め直す
	パッキン破損	パッキン交換
連成計の圧力ゲージが「0」にもどらない	ポンプの吸排レバーが㊥か㊦にセットされている	ポンプの吸排コックを㊥㊦の中間位置にする
	連成計故障	部品交換する
	安全弁が作動不良	安全弁のチェックリングを引いて作動確認する 部品交換する
吸入時、数秒で常用真空圧になる	タンク内の自動安全装置が働いている（ボールが吸い付いている）	吸排コックを㊦にし、ＰＴＯを数秒回転させる（吐出圧）ＰＴＯを停止させ、吸排コックをゆっくり㊥㊦の中間位置にしタンク内の圧力を排出する
ベーン用オイルが出ない	オイルが不足	適正量までオイルを注入する
	ホース継手、ドロップオイラが詰まっている	清掃する
	ホースがやぶれている	ホースを交換する
	ホースのベーン用オイルタンク内のホースがホース継手からはずれている	ホースを付ける
機体がふらつく	左右のタイヤ空気圧がアンバランス	「2-1 運転前の点検」に基づき適正空気圧にする
	ホイールナットがゆるんでいる	「2-1 運転前の点検」に基づき適正締付トルクにする
	ハブのベアリングの摩耗	キャッスルナットの増し締めまたはベアリングの部品交換
ステアリング装置が操作できない ブレーキがきかない	カプラが外れている	カプラを接続し直す
	油圧継手からの油もれ	シールテープを巻き、再取付
	油圧ホースからの油もれ	部品交換

原因や処置の仕方がわからない場合は下記事項とともに購入先にご相談ください。

1．製品名
2．部品供給型式（型式）
3．製造番号
4．故障内容（できるだけ詳しく）

調　整	Ｓ－２３０２０９０

千歳本社 066-8555 千歳市上長都１０６１番地２
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千歳営業所 066-8555 千歳市上長都１０６１番地２
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

豊富営業所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ１１９１番地４４
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯広営業所 080-2462 帯広市西２２条北１丁目１２番地４
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

中標津営業所 086-1152 標津郡中標津町北町２丁目１６番２
TEL 0153-72-2624
FAX 0153-73-2540

花巻営業所 028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第１１地割１２０番３
TEL 0198-46-1311
FAX 0198-45-5999

仙台営業所 984-0032 宮城県仙台市若林区荒井５丁目２１－１
TEL 022-353-6039
FAX 022-353-6040

小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁２５１２－１
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

東海営業所 485-0081 愛知県小牧市横内字立野６７８－１
TEL 0568-75-3561
FAX 0568-75-3563

岡山営業所 700-0973 岡山県岡山市北区下中野７０４－１０３
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

熊本営業所 861-8030 熊本県熊本市東区小山町１６３９－１
TEL 096-389-6650
FAX 096-389-6710

都城営業所 885-1202 宮崎県都城市高城町穂満坊１００３－２
TEL 0986-53-2222
FAX 0986-53-2233